

□ 英語活動の充実を図るために

1 担任が主体的に授業案や教材の作成を行きましょう！

子どもたちの発達段階、学習段階、興味・関心などを熟知している担任が授業案や教材を作成することが大切になります。ALT とのチーム・ティーチングによる授業を行う場合においても、担任が主体的にかかわりましょう。

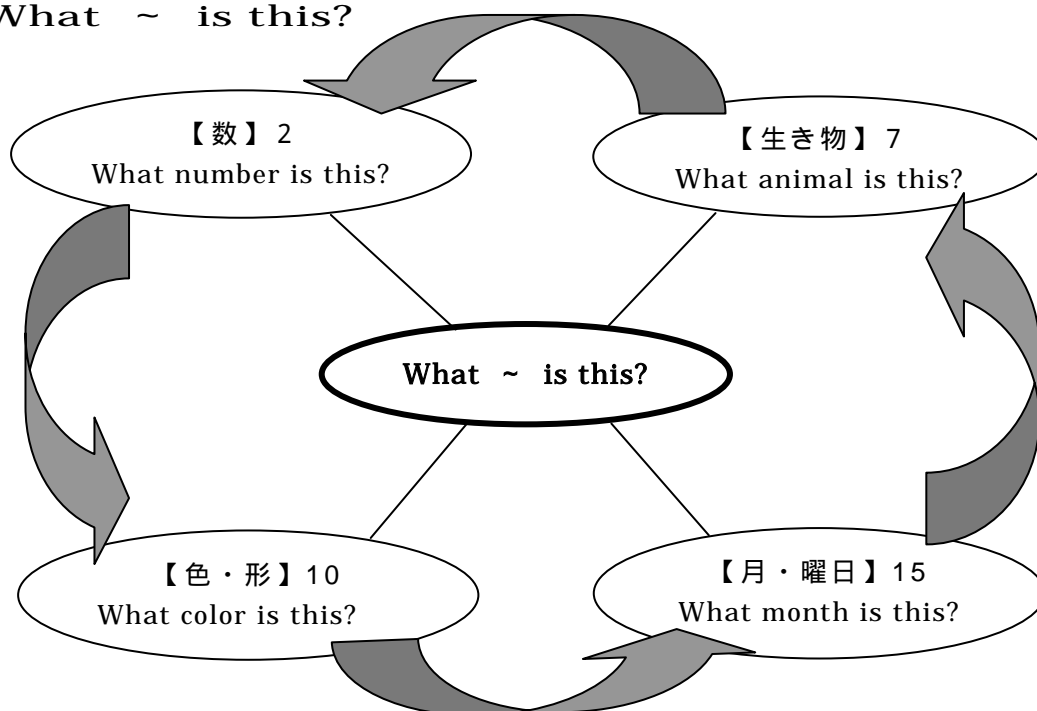
2 同じ英語を繰り返し聞かせましょう！

子どもたちが英語に慣れ親しむためには、一回の活動で聞いた英語が、それ以降の活動の中でも繰り返し聞くことができるようにすることが大切です。子どもたちの興味・関心や学習経験に合わせて、扱う内容や扱い方を変化させた様々な活動を用意し、その中で同じ英語を繰り返し聞かせるように工夫する必要があります。

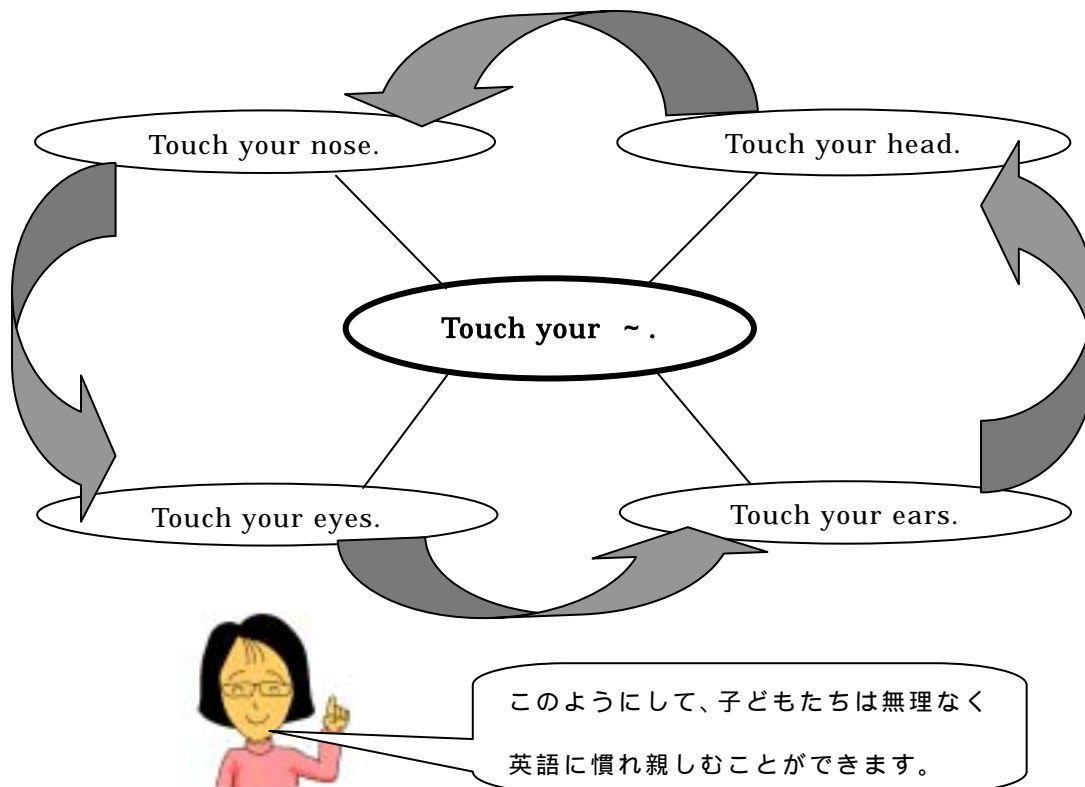
活動内容一覧（5 ページ）に示した活動では、同じような英語表現を、トピックや活動内容を変えて、繰り返し子どもたちに聞かせるようにしてあります。また、一つの活動においても、同じような英語表現を繰り返し聞かせるようにしてあります。

トピックや活動内容を変えて、同じような英語表現を繰り返し聞かせることの例

What ~ is this?



一つの活動において、同じような英語表現を繰り返し聞かせることの例
Touch your ~ . 【からだの部位】 13



3 身近な教材や視聴覚教材を活用したり、ジェスチャーやデモンストレーションを示したりしましょう！

子どもたちの興味・関心や意欲をかき立てるために、実物や絵、写真、カードなどの身近な教材や視聴覚教材を効果的に活用することが大切です。これらを使いながら、表情豊かに子どもたちに語りかけたりジェスチャーを見せたりしましょう。また、ティーム・ティーチングでは、担任とALTがデモンストレーションをすることで、子どもたちに英語を一層身近に感じさせることができます。



4 子どもたちの様々な反応を認め、「伝わった」と実感させましょう！

聞いた英語に対する子どもたちの反応は様々です。子どもたちが先生の指示や質問に対して、黙って行動で示す、日本語で答える、しぐさで答える、単語のみで答えるだけでも、子どもたちの反応を認め、励ましたり褒めたりすることが大切です。

このようにして、「伝わった」という達成感を積み上げることで、「積極的にコミュニケーションに挑戦してみよう」という、子どもたちの意欲を少しずつ高めていくことができます。



5 ALT と積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を示しましょう！

ティーム・ティーチングの活動では、「子どもたちと一緒に活動に参加する」という意識で授業に臨むことです。このような形で英語を通じて子どもたちとかがわかることは、先生も含むクラス全体に楽しく学べる雰囲気をもたらします。そして、コミュニケーションを図るために必要となる、子どもたちの積極的な態度がはぐくまれることとなります。

6 あいさつなどの英語表現を使って、英語に親しむ雰囲気づくりに努めましょう！

日常的なあいさつや、お礼とそれに対応する際の表現など、コミュニケーションを円滑に進めるための英語表現を授業中意識的に繰り返し用いることで、授業の中に英語によるコミュニケーションの雰囲気をつくり出すことができます。そして、子どもたちは使われる表現にも慣れ親しんでいきます。

子どもたちは、先生のジェスチャーやデモンストレーションをヒントにして、言われて

いることの内容を推測することができます。しかし、そのようにしても意味を伝えにくい場合もあるかもしれません。そのようなときは、必要に応じて日本語で説明しましょう。

ここでは、日常的に使える英語表現の例をいくつか示しますので、授業中に使ってみてください。

【あいさつをするとき】

付録 CD に音声収録してあります。

A: Hi. Good morning. [または Good afternoon.] How are you?

B: Good morning. [または Good afternoon.] Fine, thank you. And you?

A: Fine, thank you.

【授業を始めるとき】

- ・ Are you ready? (準備はいいですか。)
- ・ Let's start. (始めましょう。)



【頼むとき】

- ・ Will you open the window? / Open the window, please. (窓を開けてください。)
- ・ Will you shut the window? / Shut the window, please. (窓を閉めてください。)

【手伝ってもらいたいとき】

- ・ Can you help me? / Help me, please. (手伝ってください。)

【お礼を言うとき】

A: Thank you.

B: You are welcome. (どういたしまして。)



【Yes./No.の返事を促すとき】

- ・ Yes? を示すジェスチャーをして
- ・ No? ×を示すジェスチャーをして

【相手の言ったことが聞こえないとき】

- ・ Pardon? / Will you say that again? (もう一度言ってください。)

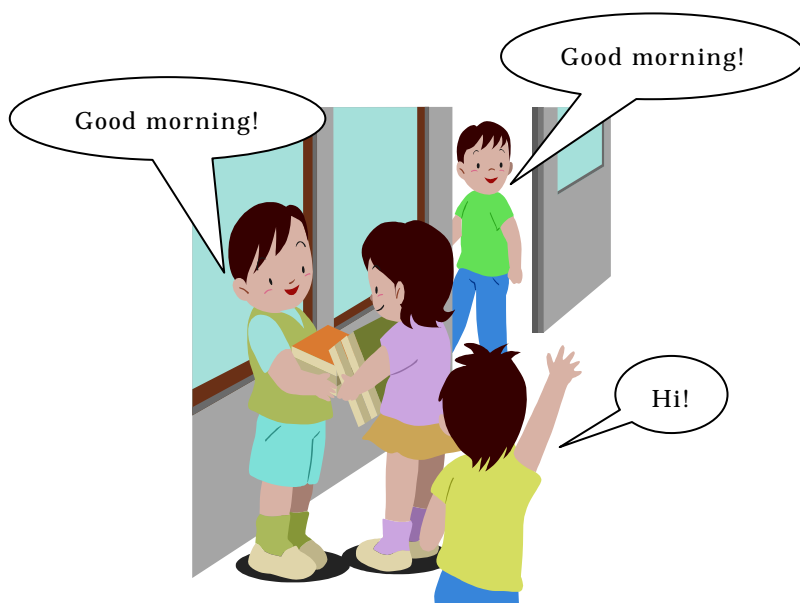
【褒めるとき】

- ・ Good job. (よくできました。)
- ・ Wonderful! (素晴らしいですね!)

【授業を終えるとき】

A: That's all for today. (今日はこれ終わりです。) See you. (また会いましょう。)

B: See you.



授業で日常的に使える英語表現については、「先生が授業で使用する英語表現」として、本書 75～78 ページに掲載してありますので、参照してください。

英語に親しむ雰囲気づくり

子どもたちが、英語を聞き間違えたり、言い間違えたり、正確に発音することができなかつたりしても、何をしたかったのか、何を言いたかったのかが先生に伝わっているのであれば、逐一その間違いを指摘してやり直しや言い直しをさせる必要はありません。先生が言い直して、その英語を何度でも聞かせればよいのです。

自然に、少しずつ、子どもたちが発話したり、子どもたち同士の間でも英語が使われるようになっていったりするように、子どもたちを支援していくことが大切です。

□ 活動集の特徴と活用方法

本書では、1～15の活動ごとに、4ページにわたって説明しています。最初の1～2ページでは活動の「内容」と「活動の参考資料」、次の3～4ページでは見開きで、「活動の流れ」に沿って、「担任(ALT)の動き」、「児童の活動」、「授業の進め方」について説明しています。